

令和2年1月20日

令和元年度第6回政策討論会第三分科会要点記録

○令和元年12月20日（金）13：00～ 第一委員会室

出席者：友永（座長）、宇野（副座長、記）、殿本、米田、京西、中井、岸田

議題「政策討論会第三分科会としての提言の作成」

- ・座長より第三分科会提言案が提案された。

【提言案について各議員の意見】

- ・提言書や提案書としてまとめる以上具体的な数字を入れるべきではないか。
- ・ワンストップか特化した窓口として書くのかの表現が気になる。
- ・その他の意見の扱いについてどうするのか。
- ・課題解決の欄をピックアップしての提言書としてまとめてはどうか。
- ・全体として岸和田の農家は家族経営で成り立っている。岸和田の農漁業が発展するための提言としてまとめていただきたい。
- ・岸和田市の産業振興新戦略プランから外れるといけませんが、各議員の意見は大きく外れているわけではない。
- ・新戦略プランの中に活力強化促進プログラムがあり、国内外の販路開拓を積極的に開拓せよとある。しかし担当課に確認したところ全く進んでいない。後継者の育成についても言及があるが、何をやっているのかが見えてこない。これらを確認すべきであるが、課題にいれるべきではないか。
- ・流通の専門家、農業の専門家などが集まったチームを作るべき。
- ・専門分野につなげる人、仕分けできる人、つまりコーディネーターが必要となる。そう

でないとは各種の専門家が数多く必要になる。

- ・ワンストップの窓口という表現を、農漁業に特化した専門的な窓口とすべきである。
- ・農漁業を市が産業ととらえているかどうか重要である。観光等との連携も必要となる、市がまず産業としてとらえるべきである。
- ・危機管理課における特命参事のような、農漁業に特化した専門家を採用すべきである。
- ・前提として岸和田の農業は家族経営の農業になっており、様々な困難に直面している家族経営農業について、市がもう少し目を向けるべきである。
- ・岸和田は家族経営の農業が支えているのも事実である。いかに家族経営の農業を維持するのもまた課題の一つである。
- ・岸和田の桃は有名だが、和歌山県の桃は地域全体でやっており、生産量、生産力が全然違う。岸和田は個々の農家ごとにやっており、退職後のにわか農業の人が多。それらを愛彩ランドに出品しているが、品質にばらつきがあり、本業の方々の出荷に影響している。
- ・最終的には、提言としてまとめ、市がある程度やっているが、進んでいない部分について提言する。

○次回の開催は、1月21日（火）10時から
引き続き政策討論会としての提言を作成を行う。